

平成二十三年
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一** から **四** まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、ア、イ、ウ、……の記号で答えなさい。

一

次の詩を読んで、問いに答えなさい。

(畑島喜久生「日本の少年詩Ⅰ」による)

問一 ― 線「まだ」は、どの文節を修飾していますか、ア～エから選びなさい。

ア 見た イ ない ウ 出会い エ 知った

問二 この詩の特徴について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 句点がいれられていることで、音読するときに言い切りの部分が強調され、わが道を一步一歩踏みしめて歩んでいくこととする意欲が伝わってくる。

イ 読点がいれられていることで、音読するときにリズム感が生まれ、目の前の道を何物にも邪魔されず進んでいくことに対する歓喜が伝わってくる。

ウ 句点がいれられていることで、音読するときにリズム感が生まれ、自分が歩み出そうとしている山道を遮られたことに対する動揺が伝わってくる。

エ 読点がいれられていることで、音読するときに言い切りの部分が強調され、どんなに悲しいことがあっても我慢しようとする覚悟が伝わってくる。

問三 Aさんは、この詩を読んで考えたことを授業中に発表するため、次のようなメモをつくりました。☐①②③に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

【初め】

・わたしは、詩の表現に着目し、構成について考えた。

【中】

・第一連…「転んだ」、「立ち上がった」、「知った」という、☐①の意味を表す助動詞を用いた表現により、成長してきた過程が描かれている。

・第二連…「感じるのだ」という表現を繰り返すことにより、☐②の自分の成長を実感している様子が描かれている。

・第三連…「私の明るい未来は潜んでいる」、「私の道になっていく」という表現により、未来への期待が描かれている。

【終わり】

・作者は、このような☐③を意識した構成にすることで、様々な試練を前向きにとらえて生きていくことの大切さを表現しようとしたのではないか。

ア	① 断定	② 現在	③ 場面の設定
イ	① 過去	② 将来	③ 場面の設定
ウ	① 断定	② 将来	③ 時間の流れ
エ	① 過去	② 現在	③ 時間の流れ

二

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

(丘修三「紅鯉」による)

問一 ― 線1、3の読みを書きなさい。また、―― 線2を漢字で書きなさい。

問二 ― 線「れ」と同じく、受け身のはたらきをしている「れ」を、ア、エから選びなさい。

ア 先生がこのお手本を書かれた。 イ 自転車に乗れるようになった。
ウ 依頼された仕事をやり遂げる。 エ ドラマの主人公にあらがれる。

問三 ― 線1「直感的にコイだと……もう自信がなかった」とありますが、「ほく」が自信を失っていた過程を、次のようにまとめるとき、に当てはまる表現を、文中のことばを用いて五十文字程度で書きなさい。

「ほく」の行動や気持ち	「おじさん」の行動や発言
・コイだと思ったものがいたあたりを指さした。 ← ・「……………」 ・コイだったかどうか、もう自信がなかった。	・だまって水にはいり、ほくが指さしたあたりをじつとのぞきこんだ。 ← ・ ・「(コイの姿はかけらほどもなかった。」「ほんとにおったつか?」とほくに聞いてきた。

問四 ― 線2「ほくは幸運に舌なめずりしながら」とありますが、文中からは「ほく」が幸運だと思ったことを二つ読みとることができます。その二つの内容を、五十五字程度の一文で書きなさい。

問五 ― 線3「一瞬の出来事」とありますが、「ほく」が一瞬の出来事と感じたコイの動きを、比喩を用いて表している部分を、文中から二十五字以内で書き抜きなさい。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

(中根千枝「適應の条件」による)

(注) 一毫——ほんの少し。 猜疑心——人を疑う気持ち。

問一——線1、3を漢字で書きなさい。また、——線2の読みを書きなさい。

問二——線「不可能」は、語の構成の仕方から「不」と「可能」に分けられます。「不可能」と構成が異なる熟語を、ア、エから選びなさい。

ア 未確認 イ 初舞台 ウ 再利用 エ 無人島

問三——線1「この人は、この幼稚園で、……考えてしまった」とありますが、この人がこのように考えたのは、日本では鍵が、どのようなものとしてはたらいっているからだと筆者は考えていますか、六十五字程度で書きなさい。

問四——線2「インド人に鍵を……むずかしい」とありますが、筆者がこのように述べる理由を、次のように説明するとき、に当てはまる最も適当な表現を、で囲んだ部分から、十字以上、十五字以内で書き抜きなさい。

日本人は、鍵をかけなかったことで被害があったことを知れば、鍵の必要性を理解し、鍵をかけるようになるが、伝統的鍵文化を持っているインド人は、として鍵をかけるため、鍵をかけることは必要でないということを立証するのがむずかしいから。

問五 この文章の内容に合うものを、ア、エから選びなさい。

ア 自分たちの国のシステムが、文化の違いによって必ずしも他の国では通用しないことがあるので、相手が受け入れない場合はシステムが違っている可能性を考える必要がある。
イ 自分たちの国のシステムを強制することは、相手にとってもエネルギーの節約になるので、相手の同意が得られなくても、自国のシステムを善意をもって提供する必要がある。
ウ 相手の国のシステムを自分たちの日常生活に取り入れることは、自分たちにとってエネルギーの節約につながる場合があるので、相手の同意を得て導入することが重要である。
エ 相手の国のシステムが自分たちの国のシステムと違っている場合には、自分たちのシステムを見直し、場合によっては改善、修正することにより理解を得ることが重要である。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

ある修行者に、路次^{ちよじ}にて鷹野^{たかのの}の大名、「お僧いづくへ」と仰せ^{おほ}られた。「愚僧も存ぜぬ」「一段好いた返答^{とこた}ちや。齋^{うけ}を申さう。あの森のうちにて、そんぢやうその家へ行きてお参れ」¹とのたまふた。「愚僧ばかり参りては、いかが候^{きもち}はん」と申^まされたれば、裏差^{うらさし}をぬいて、しるしに御やり候ふ。これをもちて行き、思ひのまま齋^{うけ}を食うて、一首誓^{ちか}きていでられた。

ここにきし

かかるおもひか

たびの身に

なさけある身を

たのみてぞゆく

さて、殿、屋形^{やがた}へ御帰^{みかへ}りありて、様子御たづねあれば、この短冊^{たんさく}を御目にかけ申した。よくよく思案^{しあん}して御覧^{ごらん}すれば、「小がたなたしかにおく」といふ、義理^{ぎり}こもれり。

〔きのふはけふの物語〕による

（歌の意味）ここに来てこのような思いをするとは思っておりませんでした。旅の身の私は、思いやりがあつて風流がわかる人を頼りにしながら旅をしていることです。

（注）路次にて——道の途中で。 鷹野の大名——鷹狩りに出た大名。

齋を申さう——食事を差し上げよう。 そんぢやうその家——どこそこのその家。

裏差——小刀。 義理——意味。

問一——線1、2は、それぞれ誰の動作を表していますか。正しい組み合わせを、ア～エから選びなさい。

ア [1] 修行者 2 大名 イ [1] 修行者 2 修行者
ウ [1] 大名 2 修行者 エ [1] 大名 2 大名

問二 文中の歌の特徴について説明した文として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 歌の中に和語よりも漢語を多く用いることで、重々しい雰囲気をもたせている。
イ 歌の中に季節を表す特定の語句を詠みこむことで、季節感を豊かに表している。
ウ 歌の最後の句を体言（名詞）で終わらせることで、旅の余情や余韻を表している。
エ 歌の各句の最初と最後の一字ずつを並べることで、意味のある言葉を表している。

問三 この文章の内容に合うものを、ア～オから二つ選びなさい。

ア 大名は、修行者に短冊を渡して、食事が終わったら歌を一首詠むようにと命令した。
イ 修行者は、大名から渡された小刀を証拠として持つて行き、食事をする事ができた。
ウ 大名は、修行者が詠んだ歌の意味が理解できなかったため、屋形にいる者に尋ねた。
エ 修行者は、自分が書き残した歌に大名が気付いたかどうか、屋形にいる者に尋ねた。
オ 大名は、鷹狩りから屋形に戻ったあとで、修行者が歌を残していたことを知った。

第一部 国語

正 答 表

問題 番号	一			二							三							四			計	
	問 一	問 二	問 三	問 二	問 一			問 五	問 四	問 三	問 二	問 一	問 五	問 四	問 三	問 二	問 一					
					3	2	1															
																		3	2	1		
正	イ	ア	エ	ウ	す(む)	麦	はもん	大きなあみで、ぼくよりはるかに慎重に手ばやく藁の下をさぐり、さらにその深みをくまなくすくっていった。	(正答例) 三十センチはゆうにあるあざやかな紅色のコイを見つけたこと、そのコイにだれも気がついていないということ。	赤いかたまりが矢のようにうしろのほうへ飛んでいく	困(る)	しんらい	従(わ)	エ	(正答例) 日本では鍵が、悪意を持っているかもしれない知らない他人からの被害を防ぐといった自己防衛、他人に対する疑惑を前提としてはたらいっているから。	物を開める動作のピリオド	ア	ウ	エ	イ	オ	
答	3	3	3	2	2	2	2	4	6	3	2	2	2	3	6	3	3	2	3	2	2	60
配点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	
通し 番号																						
採 点 基 準	三 問三			二 問四							三 問三							四 問三				
	1 ①大きなあみで、「ぼくよりはるかに慎重に手ばやく藁の下をさぐったこと、②「その深みをくまなくすくっていった」ことの二点が適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は二点を減じる。			2 字数については、解答欄の枠内で答えるものとし、それを超えるもの、または、極端に少ないものについては、各一点を減じる。							3 表現の稚拙なもの、不十分なもの、表記上の欠陥のあるものについては、各一点を減じる。					4 減点の結果がマイナス点にならないようにする。						
	二 問三			三 問四							1 ①だれもがほしがっている大物の紅鯉を見つけたこと、②だれもコイに気がついておらず、自分一人のものにできるということの二点が、一文で適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は三点を減じる。					2 その他については、問三の採点基準2、3、4に準じる。						
	一 問三			二 問四							1 日本では鍵が、「悪意を持っているかもしれない知らない他人からの被害を防ぐといった自己防衛、他人に対する疑惑を前提」としてはたらいっていることが、適切に表現されているものを正答とする。					2 その他については、②の問三の採点基準2、3、4に準じる。						
	三 問三			二 問四							三 問三							四 問三				
	1 ①大きなあみで、「ぼくよりはるかに慎重に手ばやく藁の下をさぐったこと、②「その深みをくまなくすくっていった」ことの二点が適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は二点を減じる。			2 字数については、解答欄の枠内で答えるものとし、それを超えるもの、または、極端に少ないものについては、各一点を減じる。							3 表現の稚拙なもの、不十分なもの、表記上の欠陥のあるものについては、各一点を減じる。					4 減点の結果がマイナス点にならないようにする。						
	二 問三			三 問四							1 ①だれもがほしがっている大物の紅鯉を見つけたこと、②だれもコイに気がついておらず、自分一人のものにできるということの二点が、一文で適切に表現されているものを正答とし、いずれか一方を欠いた場合は三点を減じる。					2 その他については、問三の採点基準2、3、4に準じる。						
	一 問三			二 問四							1 日本では鍵が、「悪意を持っているかもしれない知らない他人からの被害を防ぐといった自己防衛、他人に対する疑惑を前提」としてはたらいっていることが、適切に表現されているものを正答とする。					2 その他については、②の問三の採点基準2、3、4に準じる。						

(注) 正答表に示された事項以外のものについては、学校の判断による。